



「子供達が主役の授業」とは、どんな授業をイメージしますか？

1学期の計画訪問や要請訪問の授業では、年間のゴールの姿に向けて、子供達の実態に合わせた取組が行われていました。また、県の学力向上の重点や生徒指導の4つの視点につながる「子供達が主役となる授業」に向けた授業や学校研究も見られました。

では、「子供達が主役の授業」とは、どんな授業をイメージしますか。

その例として、2点挙げてみます。1点目は、生徒指導の4つの視点から「自己決定」をキーワードにし、子供が選択する場面を取り入れる授業です。2点目は、子供達から意欲や考えを引き出し、つなぐ工夫がある授業です。A訪問で見られた姿を紹介します。1学期の授業や学校研究の振り返りの参考にし、2学期につなげていただきたいと思います。

① 自己決定の場の提供

子供達が選択すること

- | | | | |
|--|-----|--------|---|
| ○時間 | ○場所 | ○タイミング | ○表現方法
ノート、端末、黒板、ホワイトボード |
| ○数
人数、問題数、資料等 | | | ○まとめや振り返りの内容
・解決できたこととできなかったことの確認
・次の学習に向けて・学び方 |
| ○解決（考える・調べる）方法
自分で、友達と、先生と、
教科書、資料集、図書、インターネット | | | |

教師の働きかけ

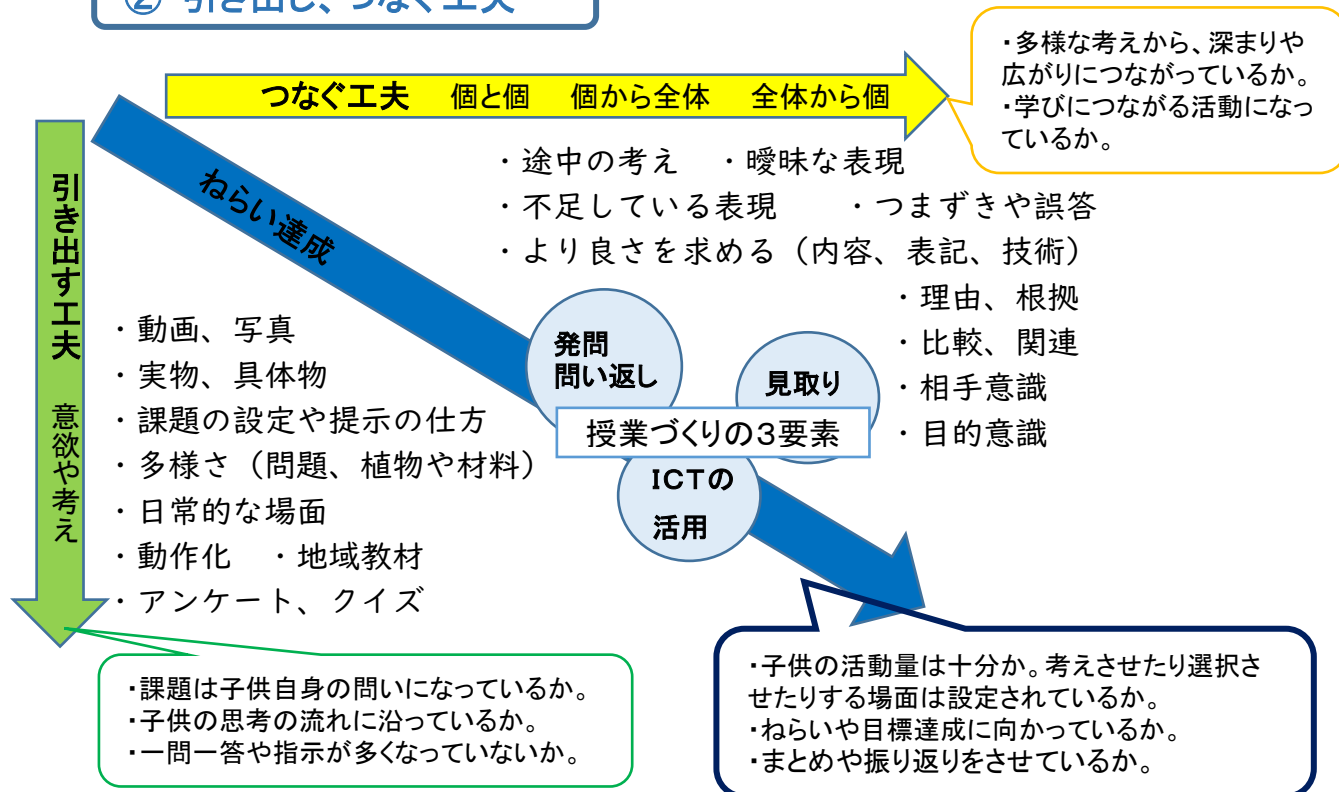
- | | |
|--|--|
| ○基礎的・基本的な知識や技能の到達状況の確認、定着の徹底
→事前テスト、確認テスト | ○子供達に任せる場合を想定した準備
→・思考ツール枠、ワークシート
・難易度を変えた問題、複数資料 |
| ○単元や1時間の進め方の確認
→単元や授業の流れを掲示・ゴールの確認 | ○子供達同士や教師が学習の進捗を確認するための方法
→・ネームプレート、スプレッドシート、フォーム等で個の学習状況を把握
・「ポートフォリオ」や「振り返り」等をクラウドに管理・保存 |
| ○子供達に任せる、選択させることと、決まっていることの確認
→・任せる時間や場所の確認
・全体交流や振り返りの時間や場所の指定
・板書やホワイトボード | ○教師の見取り
→・子供の考えを想定し類型化した見取りの視点
・困り感への手立て |

A訪問で見られた授業より ～子供達が選択する場面～

- ・国語科で、図または表を選択し、話し合ったりまとめたりしていた。
- ・社会科で、時間内に、自由に相手を選んで、自分の考えを発表したり質問したりしていた。
- ・数学科で、適用問題を選択し、違う問題を選んだ相手に説明していた。

子供達が目的意識をもって選択するために、基準や視点を明確にしたり、全体で共有・可視化したりすることが大切です。

② 引き出し、つなぐ工夫



A訪問で見られた授業より ～つなぐ工夫～

算数科の場面

全員が説明することを求める。

C: 答えは69です。

T: なんで69なの？

全員が説明できるといいね。誰か説明してください。

その後の先生の働きかけとして、以下が見られた。

T: 今の説明と同じことを言える人いるかな。

T: 表に書き加えながら説明できる人はいるかな。

T: 廊下側の方が窓側の人に説明してみよう。

今度は、窓側の方が廊下側の人に説明してみよう。

一人の発言から説明できる人が増える活動につながった。

国語科の場面

グループ活動後のまとめの記述では、1人1台端末を活用し、自分の最初の考えと変わったところや新しく加わったところを、色を変えて打ち込むことで、可視化していた。

それを全体で共有し、良いと思う生徒の表現を発表させ、「どこが良かった？」「根拠は？」と問うことで、学びに深まりがあった。

生活科の場面

観察において、あさがおの成長が遅い児童を意図的に指名する。

C1: ぼくのあさがおに、花はさいていません。

T: C1さんのあさがおの花はもう咲かないのかな？

C2: C1さんには、つぼみがあるから大丈夫！

C3: つぼみて何？

初めは分からなかった C3が、C2の説明を聞き、分かった後、

T: C3さん、分かったことを C1さんに教えてくれる？

C3: これこれ、見て！ つぼみから、花が咲くから…

分かったことについて、相手を変えてアウトプットすることで、理解が広がった。

外国語科の場面

1人1台端末の活用によって、個人が打ち込んだ英文をすぐに全体で共有していた。それを見取りにも生かし、意図的に特定の生徒の英文を取り上げ、

「What information do you need to put in?」「Is this sentence OK?」と全体に問いながら、内容面や言語面のよさや修正点について考える。

問い返しの例として以下が見られた。

「Something is wrong with this sentence. Please correct.」

「How can you make this better?」

「Which is better, A or B? Why?」